

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 20 日現在

機関番号：11501

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2014～2016

課題番号：26704011

研究課題名(和文) 神殿をめぐる活動と地域間交流の相関からみたアンデス文明形成期の社会動態

研究課題名(英文) Social Dynamics in the Formative Andes: Activities and strategies for Ceremonial Architecture and interaction

研究代表者

山本 睦 (Yamamoto, Atsushi)

山形大学・人文学部・助教

研究者番号：50648657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、アンデス文明の基盤が築かれたとされる形成期(紀元前3000-1年)の社会変化に際して、社会的統合および地域間交流の中心であったとされる神殿をめぐる諸活動と地域間交流、およびその関係性がはたした役割を実証的に解明することである。

そこで本研究では、ペルー北部のワンカバンバ川流域で神殿遺跡を発掘するとともに、作業仮説上、地域間交流を考えるうえで重要であると推測された、ワンバンバ川周辺の先行研究のない地域において、踏査を実施した。

また、本研究の成果によりこれまでの研究成果を総合し、ペルー北部の地域間ルートを含む地域間交流の実態を論じることが可能となった。

研究成果の概要(英文)：The object of this research is to consider the relationship between interregional interaction and the social activities in the early ceremonial centers in the Andes. During the Formative Period (3000-1 B.C.), ceremonial centers were characterized by monumental constructions and they played an important role in both regional social integrations and interregional interactions. Therefore, it is necessary to evaluate empirically how the activities in these centers are related to the pan-regional socio-economic transformations. In accordance with this objective, an archaeological project was carried out in the Huancabamba valley and its adjacent areas in Northern Peru and it was composed of both excavations and surveys. Through this research, all of the fragmented data of the past researches in the region were integrated in the context of early interregional interaction of northern Peru, which includes new perspectives on ancient route complex.

研究分野：先史人類学

キーワード：文化人類学 先史学 文明 社会変化 アンデス 神殿 交流

## 1. 研究開始当初の背景

アンデス形成期(紀元前3000年~1年)は、文明の胎動期とされる。そのため、形成期研究の主目的は、人類学や考古学の主要テーマである文明形成過程の解明となっている。

現在、形成期研究の中心にあるのは、神殿とよばれる公共的・記念碑的・宗教的建造物である。また、神殿は、形成期において、社会的統合かつ交流の中心であったと考えられている。

そうした状況のなかで、これまでに神殿の建設活動自体を社会変化の主要因とする論や、神殿を核とする地域間交流を文明形成において重要視する論が展開されてきた。

しかし、神殿において実際に社会を動かした人々の活動や戦略を考察し、地域間交流を実際に移動あるいはその移動を統御した人々の実践として、総合的に論じる研究は、ほとんどない。

また、神殿をめぐる活動と地域間交流の相関が、実際に社会を動かした人々の活動や戦略といった視点から捉えられることも、ほぼ皆無であった。

その一方で、近年になり、GISによる地域間ルート解析や、踏査による地域間ルートの特定から、ルートと形成期社会の展開との関係を論じる研究がでてきた。ただし、実際に社会を動かした社会成員の主体的実践を切り口に、ルートの成立や衰退、維持や管理を含めて、神殿をめぐる活動と地域間交流およびその関係性を多角的かつ通時的に解明し、社会動態にアプローチしようとする研究はなかった。

そこで、筆者らは2005年以降継続的に、研究上重要とされながら先行調査のなかったペルー北部ワンカバンバ川流域で遺跡分布調査を行い、同流域で最大規模の神殿遺跡インガタンボで発掘調査を実施してきた。そして、建築や出土遺物、遺跡分布データの分析に加え、他地域の先行研究との比較やGISを用いたルート解析から、神殿を中心とした同流域社会の展開と地域間交流の実態解明に取り組んできた。

その結果、ワンカバンバ川流域、とくにインガタンボで生じた以下のことを明らかにした。

神殿で繰り返される諸活動を通じて、社会組織が変化した

神殿での活動を支えるため、イデオロギーと関わる情報や物資、技術の獲得や創出が不可欠となり、地域間交流が重要な社会戦略となった

同流域では、地域間交流が活性化すると同時に急激な社会変化が生じた

その変化には、荷駄獣となるラクダ科動物の利用開始と関連した地域間ルートの変化が密接に関与した

この研究は、形成期研究の底上げだけでなく、社会変化に際し地域間交流が極めて重要な役割をはたした社会を事例に、社会成員の

活動と戦略から社会動態を捉えようとした点において、従来の文明論に新たな視座をもたらした。

また、2012~2013年には、ワンカバンバ川流域の南にあるチョターノ川流域においても、遺跡分布調査を実施した。その結果、近接する両地域は、交流を持ちながらも、神殿をめぐる活動や地域間ルートとの関わりにおいて、異なる展開がみられることが想起された。

そこで、上記の調査・研究の成果や意義を継承しつつ、文明形成をめぐる研究に寄与するために着想されたのが本研究である。そのため今後も、神殿を中心に実際に社会を動かした人々の活動や戦略に焦点をあてていく。そして、地域間交流に関しては、特定地域だけを対象とするミクロな視点だけでなく、地域間ルートを介して、周辺地域を含むマクロな視点からも捉える。

つまり、ワンカバンバ川流域で神殿を発掘するだけでなく、周辺地域の遺跡踏査を実施し、それらにGISを用いたルート解析を加えることではじめて、神殿をめぐる活動と地域間交流の動態的相関を明らかにでき、アンデス文明形成期社会が展開した背景を追求することができる考えたのである。

## 2. 研究の目的

アンデス形成期には、神殿を中心に社会が成立・展開したとされる。そのため、アンデス文明の形成に際して、神殿をめぐる諸活動や地域間交流が重要な役割をはたすとされるが、両者の関係性についての実証的研究は不十分である。そこで筆者らは、ペルー北部ワンカバンバ川流域で考古学調査を継続的にを行い、神殿をめぐる活動と地域間交流、そしてそれらと社会変化との密接な関係を具体的に示してきた。これを発展させていくために、本研究では、ワンカバンバ川流域の諸神殿の発掘に加えて、周辺地域の遺跡踏査に基づく考古資料の分析、およびGIS(地理情報システム)によるデータ整理とルート解析を総合して、既述の動態的相関を明らかにし、従来の文明論に新たな視座をもたらすことを目指した。

研究課題は以下の4つで、本研究期間内では(1)~(3)の短期的課題へ集中的に取り組んだ。(4)の中期的課題については、(1)~(3)による新たなデータや解釈を下地に、関連文献を渉猟して理論とデータから引き続き検討していく。

### (1) ワンカバンバ川流域の社会的状況の解明

流域内で社会統合の核となるインガタンボに加えて、同流域に存在する他の神殿を発掘し、その編年や様相(建設活動、神殿での儀礼や製作活動、地域間交流)を把握する。発掘資料の分析や比較を通じて、流域内の神殿間の関係性を、各神殿に関わる社会成員の

活動や戦略から明らかにし、流域内の社会的状況を解明する。

#### (2) 周辺地域の研究の底上げ

先行研究のないペルー北部山地で遺跡踏査を実施し、神殿の分布状況などの基礎データを充実させる。考古資料から質的に地域間交流を考察すると同時に、遺跡分布状況と地域間交流、とくに地域間ルートとの関連を明らかにして、各地のデータを比較するための基盤を築く。

#### (3) 地域間交流をめぐる議論の精緻化

(2)で獲得した遺跡分布データと、以前よりも詳細になった数値地図を用いて、GISによる遺跡データベース作成と地域間ルート解析を行う。この結果を(1)と(2)の考古資料の質的分析と総合して、地域間交流をめぐる議論を精緻化する。

#### (4) 神殿をめぐる活動と地域間交流の動態的相関の解明

ワンカバンバ川流域でみられた現象を、交流を有した周辺地域社会と比較し、その特殊性と共通性を抽出したうえで、神殿をめぐる活動と地域間交流との相関を明らかにする。理論的枠組みを構築し、議論の一般化を図る。

### 3. 研究の方法

#### (1) 平成26年度

ペルー北部で遺跡踏査を実施した。神殿や地域間ルートと関わる基礎データを獲得し、それらと生態環境との関連を記録した。

#### (2) 平成27年度

インガタンボに加えて、流域内で第二の規模を誇ると考えられたイエルマ神殿遺跡の発掘をおこなった。

#### (3) 平成28年度

ペルーにて出土遺物の分析、実測、写真撮影を実施しつつ、分析結果を総括した。

なお、全年度を通じて、インガタンボおよびイエルマ遺跡の発掘出土資料を、詳細に分析した。全出土遺物を分析することは困難であったため、そのうちの神殿における祭祀活動や地域間交流と関連する遺物の分析を中心におこなった。

また、日本では、ペルーで獲得したデータの整理や関連文献の渉猟に加え、専門家と連携してGISによるデータベース作成と地域間ルートの解析に着手した。

調査成果は、協力者との討議を重ねながらまとめ、国内外でその都度発表をおこなった。

### 4. 研究成果

#### (1) 遺跡踏査およびルート研究

これまでに調査してきたワンカバンバ川流域とチョターノ川流域の狭間を埋めるよ

うに、インカワシ市とクテルボ市周辺地域で、広域的な遺跡踏査をおこなった。その結果、既知の諸遺跡を実見し、遺跡の現状や地表面で観察される土器から各遺跡の年代的位置づけを把握するだけでなく、ペルー文化省に未登録の神殿遺跡や岩絵遺跡などを複数記録した。

当初は予期していなかったが、ペルー北部山中において、ラクダ科動物を現在飼育している地域が新たに確認された。さらに、クテルボ市から東の熱帯低地へ抜ける地点に、形成期の遺跡はほとんど存在しないことがわかった。これらの新たな知見は、ペルー北部の海岸部、山間部、熱帯低地を結ぶ地域間交流ルートの同定につながる極めて大きな成果である。これらのデータは、GISを用いた整理が進んでおり、踏査に先だって解析・推測されていたペルー北部の地域間想定ルートを修正し、その精緻化につながった。

#### (2) 発掘調査

以前より発掘をすすめてきたインガタンボ遺跡、および流域内で第二の規模を誇ると考えられたイエルマ遺跡で発掘調査を実施した。

その結果、インガタンボでは、従来 of 想定以上に神殿が大規模かつ複雑な構造を呈していたことや、建造物の改築とともに地域間交流を示す資料が増加していくことが明らかになった。これは、神殿をめぐる活動と地域間交流の相関を論じる際に基礎となる、重要なデータである。

また、イエルマでは、形成期の活動はみとめられたものの、われわれが想定していたような大規模な神殿建築は確認できなかった。ここからは、形成期のワンカバンバ川流域において、インガタンボが抜きんでて巨大かつ複雑な形態を有する神殿遺跡であったことが明らかになった。

つまり、発掘調査によって、ワンカバンバ川流域では、複数の神殿が同時併存するものの、それぞれに異なる社会展開が存在した可能性が示唆されたといえる。

#### (3) 出土資料の分析

これまでの発掘調査から明らかとなったワンカバンバ川流域内の多様な社会的状況を解明する目的で、発掘出土資料を分析した。

とくに動植物依存体を中心に分析をすすめたインガタンボでは、これまで把握していた以上に、バラエティに富んだ動物資源が利用されていたことが明らかとなった。このなかには、地域間交流に際して荷駄獣とされるラクダ科動物も含まれている。

また、分析出土資料が、神殿の改築時に設けられた灰層から一括して出土したものであることから、神殿における祭祀活動と地域間交流の関係を議論する下地を築くことができた点は、今後の研究展開を考えるうえで非常に重要なデータであるといえる。

さらに、インガタンボとイエルマの土器の比較によれば、ワンカバンバ川流域の中心的神殿であるインガタンボでは、土器のバリエーションがより豊富で、周辺地域で特徴的とされる土器の出土もより顕著であることが確認された。このことは、流域内の他の神殿よりも、インガタンボが、より積極的に地域間交流をおこなうだけでなく、流域内の交流をコントロールしていたことを推測させるものである。

これらに加えて、インガタンボおよびイエルマ遺跡出土資料の年代測定結果によれば、ペルー北部で紀元前 800 年ごろとされてきた形成期後期の開始が、紀元前 750 年ごろに変化する可能性が示唆された。形成期後期は、アンデスにおいて大きな社会変化が生じた時期とされるため、その年代には十分な注意が払われる必要がある。

#### (4) 総括

当初予期していなかった上述の様々なデータを獲得したことによってえられた主な知見および仮説は以下の通りである。

ワンカバンバ川流域では、形成期において、複数の神殿が存在したものの、地域間交流の中心はあくまでインガタンボであった

ワンカバンバ川流域において、インガタンボ以外の神殿は、小集団の統合の中心として機能を特化させていた。また、流域内の諸神殿は、規模や立地などに応じてその役割が異なっていた

これまでの調査によって、神殿における建設活動や祭祀活動と、地域間交流とが密接に関連していることは、明白である。

しかし、形成期のワンカバンバ流域内に存在した多様な社会的状況を明らかにし、神殿をめぐる諸活動と地域間交流との動態的相互関係をより詳細にとらえていくには、流域内の他の小規模神殿遺跡だけでなく、社会的統合かつ交流の中心となるインガタンボ遺跡でさらなる調査を続けていくことが重要であると考えられる。

さらに、年代測定によって浮かびあがった形成期後期に関する編年の問題については、今後、ペルー北部一帯の諸遺跡との比較検討をもとに、取り組んでいく必要がある。

本研究でえられた成果に関しては、その都度国内外で刊行・発表してきたが、そのインパクトは大きく、十分な評価をうけており、さらなる調査の継続と成果の出版が期待されている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

山本 睦、マリーナ・ラミーレス、インガタンボ遺跡(第四次)およびイエルマ遺跡の発掘調査、古代アメリカ、査読有、18 巻、2015、65 - 77

山本 睦、先史アンデスにおけるペルー北部チョターノ川流域社会の形成と変遷、国立民族学博物館研究報告、査読有、39 巻 4 号、2015、511 - 574

[学会発表](計 10 件)

Atsushi Yamamoto y Marina Ramirez、Excavaciones de los sitios arqueológicos Ingatambo y Yerma, Cajamarca、2016.9.16、III Congreso Nacional de Arqueología, Perú

Atsushi Yamamoto、La dinámica social y paisaje del valle de Huancaabamba: Construcciones de los centros ceremoniales e interacciones interregionales、II Simposio Internacional Arqueología, Arquitectura y Museos、2016.8.8、Colegio Nacional San José (Perú)

Atsushi Yamamoto、Investigación arqueológica en el extremo norte de los Andes: Una perspectiva desde el valle de Huancabamba-Cajamarca、II Simposio de Arqueología, Avances de las Investigaciones arqueológicas de las misiones italiana y japonesa、2015.9.5、Museo Antonini (Perú)

Atsushi Yamamoto、Sociedades del Formativo en el extremo norte y la vertiente occidental de los Andes: Un caso para el estudio de fronteras culturales、Simposio conmemorativo por el centenario del nacimiento de Seiichi Izumi、2015.8.4、Biblioteca Nacional del Perú (Perú)

Atsushi Yamamoto、Caracter y distribución de la arquitectura pública: Una mirada de las interacciones sociales de frontera desde la arquitectura pública en el extremo norte del Perú、55 Congreso Internacional de Americanistas、2015.7.13、Universidad Francisco Gavidia (El Salvador)

山本 睦、ペルー北部地域の遺跡踏査：地域間ルート試論、古代アメリカ学会第 19 回研究大会、2014.12.6、名古屋大学(愛知県)

山本 睦、アンデス文明形成期における神殿をめぐる人々の活動、日本文化人類学会第 48 回研究大会、2014.5.18、幕張メッセ国際会議場(千葉県)

[図書](計 1 件)

山本 睦、臨川書店、第 3 章：自然環境における神殿の位置づけ、関雄二編アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界、2017、83-108

[産業財産権]

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本 睦 (YAMAMOTO, Atsushi)  
山形大学人文学部・助教  
研究者番号：50648654

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

( )